

活動報告書

報告者氏名：川上 愛里

所属：京都市立呉竹総合支援学校

記録日：2013年 2月 25日

【対象児（群）の情報】

・ 学年

小学部 3年生 男児

・ 障害名

アテトーゼ型脳性マヒ（混合性四肢マヒ，構音障害）

・ 障害と困難の内容

特に両上肢のアテトーゼが強く，物の操作が難しい。また声が小さく，発音が不明瞭である。そのため主体的な活動や人との関わりが制限されがちである。また，難しいと感じることは諦めてしまうことが多い。

【活動目的】

・ 当初のねらい

対象児の興味関心を拡大し，人とのやりとりをひろげることをテーマとした。対象児は興味関心のある事柄に関しては知識も豊富で難しい言葉や漢字を知っている。だがそれを人に伝える手段が乏しく，また四肢マヒのために移動及び活動は制限されがちで，物の操作経験が少なかった。H23年度を取組と，家庭でもインターネット検索や動画鑑賞等余暇活動としてiPadに慣れ親しんでいるため，iPadを使った活動には意欲的に取り組んでいた。そのため，対象児が難しいと考えている課題でも抵抗感の少ないiPadを使用することで，主体的に取り組むことができるのではないかと考えた。学習单元の中でiPadを使用して，自分の思いを人に伝えて共有する活動を繰り返すことで，コミュニケーション意欲を育て，人とのやりとりをひろげることを目的とした。

・ 実施期間

家庭での活用も含め，ほぼ毎日継続して取り組んでいる。(2012年5月～継続中)

・ 実施者

松尾 百絵 （教員）

・ 実施者と対象児の関係

担任

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

対象児は知識として単語をたくさん知っているが、発信は二語文程度の口語表現にとどまっていた。また、構音障害のため、特に関わりの少ない人との口頭でのやりとりでは自分の思いを相手に伝えるのに時間がかかり、会話を続けることが難しかった。昨年度から学校や家庭で iPad を使用していたが、家庭では主に足指での操作で好きな動画を見る余暇として活用していた。

・活動の具体的内容

自分の思いを伝える手段の獲得を目指し、継続して主に4つの「書く」活動に取り組んだ。1つ目は、5月から7月にかけて「昆虫の成長に関心を持って飼育する」という単元目標のもと、青虫から蝶に成長する様子を毎日、写真と一文のコメントを足指入力で記録した。写真の撮影からコメント入力までを簡単な操作で行い、また書き続けた記録を一目で見ることができると『PhotoMemes』というアプリを使用した。さらに一定時間の間隔でシャッターを切る『微速度カメラ』を使って休日の朝方の羽化の様子を定点撮影することで、昆虫の成長への関心を深めた。足の親指を使って文字入力するため、親指部分にだけ穴を開けた靴下を履いて操作を行うことで誤操作を防止した。また、校内 PT と連携して座位でのポジショニングを考え、足指入力のしやすい位置や角度を調節した。2つ目は、10月から家庭学習として担任と交換日記を行った。対象児は家庭の iPad で日記を記入し、担任は学校の iPad でそれを確認し返事を書くという取組で、双方のやりとりは1日3～5回程度続き、現在も継続している。同じアカウントを使って即時的にやりとりができる『瞬間日記』というアプリを使用した。3つ目は、10月から週末の家庭学習として読書感想文に取り組んだ。学校で読書感想文の書き方を勉強し、そのメモを見ながら本を読んだ感想を『メモ』に対象児が作文し、保護者が印刷して学校へ提出するという方法で行った。4つ目は、冬休みに対象児が好きなクラシック音楽DVDの解説を書いて図鑑を作成した。アプリは観察日記の時と同じ理由から『PhotoMemes』を使用した。

・対象児（群）の事後の変化

iPad で継続して「書く」活動に取り組んだことにより、自分の考えを表現し、表出する1つの手段を獲得した。また、これまで余暇活動での使用が主であった iPad が家庭学習においても定着してきた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

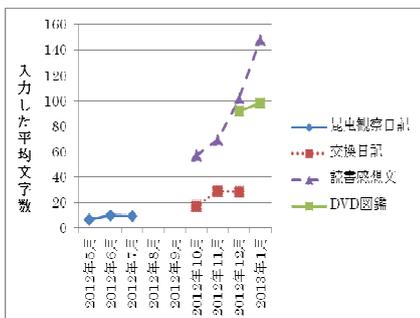
4つの「書く」活動を通して、対象児の文章力と表現力は向上したと感じる。元々対象児は偏った範囲ではあるが知識として言葉をたくさん持っており、思考の上では文章を組み立てていたと推測するが、それが十分に表出されることは少なかったと思われた。今回 iPad の手段を得たことで、内に貯めていた言葉を外へ表出する練習がなされ、徐々に長い文章を書き出すことができるようになったと感じている。

また、iPad が対象児にとって操作しやすかったことに加え、1つの機器を使い続ける中でも、活動内容やアプリを変えることができたため、対象児が飽きることなく取り組めたことも今回の大きな成果だと感じている。

対象児は今回の継続した取組の中で、口頭でのやりとりも積極性が向上したように感じた。担任以外の何人かの指導者からも対象児からの口頭での発信も増え、4月に比べて発音も明瞭になってきたという声が聞かれた。対象児が自分の考えを表現し、表出する手段を獲得したこと、さらに日記や感想文等対象児の考えを表出する活動を続けたことで、口頭の会話での一言一言の背景にある彼の思いを担任が知ることができた。そのことにより、やりとりの質が深まったことが、対象児の思いを表出する意欲につながったと考えている。

・エビデンス（具体的数値など）

4つの取組みでそれぞれ対象児が入力した月ごとの平均文字数を表1に示した。また、図1は実際に対象児が入力した画面である。最初に取り組んだ昆虫の観察日記の時の5月～7月の月平均文字数は8.4文字で、2語文程度であった。読書感想文は、10月には平均57.0文字から始まり、1月には平均148.0文字になった。昆虫の観察日記と、DVD図鑑の作成は同じアプリを使用した。DVD図鑑の平均文字数は94.8文字となり、文章で表している。ただし、この2つの活動で使った『PhotoMemes』は100文字までの字数制限があり、DVD図鑑作成時には一度考えた文章を短くまとめ直していた。



課題	24年 5月	24年 6月	24年 7月	8月	9月	24年 10月	24年 11月	24年 12月	25年 1月
昆虫観察日記	6.6	9.7	9						
交換日記						16.9	28.6	27.8	
読書感想文						57	69	101.7	148
DVD図鑑								91.7	98

H25年1月26日現在

表1: 入力した平均文字数

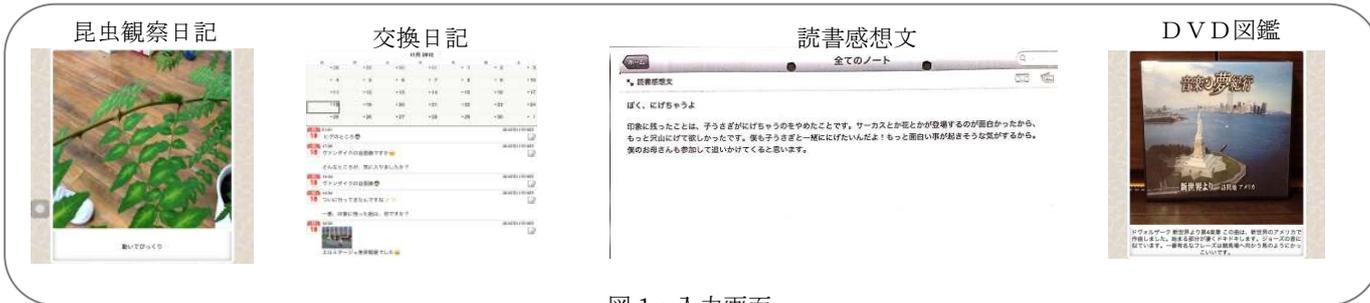


図1: 入力画面

・その他エピソード（画像などを含めて）

対象児の取組を進めるにあたり、担任を中心に校内のICT担当やPTと連携し、多面的な支援を行った。ICT担当にアプリの相談や周辺機器の相談を行ったり、PTにポジショニングの相談をしたり（図3）、対象児が最大限に力を発揮できるよう環境設定を整えた。

交換日記では、対象児だけでなく、担任と保護者とのやりとりも見られ、連絡帳としての機能も果たしていた。

対象児がiPadに親しんでいて、iPadが彼のコミュニケーションツールの1つになることから、この先も彼の支援機器となるよう活用を深めていきたい。これまでの取組では不随意運動が比較的制御しやすい足を使って活用を進めていたため、活用場所は教室か家の中に限られている。これから更に実生活での人とのやりとりを深めるためには、普段から使用している座位保持装置上での活用が必要となると考えている。そのために、上肢を使った操作練習や、キーボード等の周辺機器の検討、音声入力の実行等を行なっていくつもりである。



図2: 誤操作防止の靴下



図3: PTと位置の相談をしている様子

